

喜多流 自主公演

平成二十八年三月

平成28年 3月27日(日)

12:00 開演 (11:00 開場)

十四世喜多六平太記念能楽堂

料金:全席指定(税込)

S席 9,000円 A席 8,000円 B席 7,000円

C席(1階栈敷席) 6,500円 D席(2階席) 6,500円

学生席(2階席) 2,500円 (25歳以下、要学生証提示)

・午前11時15分より、本舞台にて当日の演目の解説をいたします。
お気軽にご参加ください。

・当日券をご用意できる場合は午前10時45分より発売いたします。

昭 湯 箬

君 谷

大 村

佐 々 木 多 門

定 大 作

主催 公益財団法人 十四世六平太記念財団 協力 喜多流職分会

チケット予約購入のご案内

インターネット

喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>
(24時間対応、要登録・無料)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

② 喜多能楽堂事務局 窓口

クレジットカードでお支払いの上(ホームページでのweb決済)、ご予約の際に画面に表示された番号を窓口にご提示いただき、チケットをお受取りください。現金でのお支払いはできません。

電話予約

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上、チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

② 郵送

チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振込みください。
入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

③ 喜多能楽堂事務局 窓口

ご予約の際お伝えした番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金のみとなります。

窓口

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

お支払いは現金のみとなります。

※お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。

ご予約の際ご案内いたします。

※平成27年度公演の後半5回分・28年度前半5回分は発売中です。

※ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

ご注意

- ・開演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・ロビー・見所での飲食はできません。2階ラウンジをご利用ください。
- ・喜多能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。コインロッカーもご利用ください。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

喜多流自主公演年間優待券

5枚綴り 35,000円

- ◆ご希望のどの席種でもお選びいただけるお得な年間優待券です。
- ◆お求めは喜多能楽堂事務局まで。各喜多流職分でも承ります。
- ◆ご観能の際は別途チケットをご予約ください。
 - ・追加料金はかかりません。
 - ・ご予約は、インターネット、電話、窓口で承ります。
 - ・年間優待券のみでの観能はできません。
 - ・ご入場の際は、年間優待券とチケットをご提示いただけます。
- ◆ご利用は、表記年度中(4月～3月)の喜多流自主公演のみ有効です。青年能には使用できません。

自主公演観客席御案内



S席	9,000円	C席(1階栈敷席)	6,500円
A席	8,000円	D席(2階席)	6,500円
B席	7,000円	学生席(2階席)	2,500円

会場案内図



JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分。
目黒駅西口よりドレメ通りを直進。杉野学園体育館手前を左に入る。

※当能楽堂は駐車場施設がございませんので、お車でのご来場はご遠慮願います。

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9

TEL: 03-3491-8813 FAX: 03-3491-8999

喜多能楽堂ホームページ: <http://kita-noh.com/>

三月自主公演番組

後シテ・梅原景季の霊
シテ・里人 佐々木多門

箆

ワキ連・從僧 村瀬 慧
ワキ・旅僧 福王 和幸
ワキ連・從僧 村瀬 提

後見 塩津 哲生
金子 匡一

地謡 狩野 祐一
大鼓 龜井 洋佑
小鼓 幸 信吾

内湯 慶三
高林 呻二
粟谷 明生
粟谷 能夫
金子 敬一郎

狂言

鐘の音

シテ・太郎冠者 野村 万作

アド・主 石田 幸雄

休憩 (二十分)

能

シテ連・朝顔 谷 友矩

湯谷

ワキ・平宗盛 福王 茂十郎
シテ・湯谷 大作 矢野 昌平
ワキ連・平宗盛の從者

後見 友枝 昭世
内田 安信

地謡 友枝 雄太郎
粟谷 充雄
粟谷 浩之
佐藤 寛泰

松井 彬
中村 邦生
出雲 康雅
内田 成信

休憩 (十分)

仕舞

東北

能

子方・王昭君の霊 友枝 大風

後シテ・轉那將の霊
シテ連・王母 友枝 真也
前シテ・白桃 大村 定

昭君

ワキ・里人 福王 和幸
アイ・公浦の里人 内藤 連

大鼓 佃 良勝
小鼓 森 貴史

太鼓 小寺 佐七
笛 藤田 貴寛

後見 香川 靖嗣
大島 政允

地謡 高林 昌司
佐藤 章雄
佐藤 了一
長島 茂

谷 友矩

附祝言

— 終了予定 午後五時頃 —

箆(えびら)

九州から上京途中の旅僧が須磨の浦の生田川に着くと、色鮮やかに美しく咲いている梅の花を眺めている男に出会う。僧は男にこの梅の名前の由来を尋ねる。男は源平合戦の頃、若武者梶原源太景季がこの梅の枝を笠印のかわりに箆に挿して、手柄をたてたことから「箆の梅」と名付けられたのだと言い、一ノ谷の合戦の様子を詳しく物語る。一夜の宿を所望する僧に、男は自分は景季の霊だと名乗り、梅の木陰で夜を明かすように言い消えてゆく。八中人ノ僧が木陰で休んでいると僧の前に景季の霊が、箆に梅の花を挿した若武者の姿で現れる。修羅の苦患を見せ、また生田の合戦で梅を箆に挿して戦った様子を再現し、僧に回向を頼んで夜明けの光の中に姿を消し、僧の夢が覚めた。

鐘の音(かねのね)

息子の元服に際し、黄金造りの刀を差させようと思った主人が太郎冠者に、鎌倉へ行き(金かね)の値(ね)をきいてくるよう命ずる。それを、鐘の音と勘違いした太郎冠者は、鎌倉の寺々をめぐる。鐘楼堂の鐘をついて音色を聞き比べてくる。帰途してその旨を主人に報告した太郎冠者は叱責されてしまうが、鎌倉の寺々を回った様子を語り舞って主人の機嫌をとる。

(約二十五分)

湯谷(ゆや)

遠江国、池田の宿の長である湯谷は、平宗盛の側に仕えていた。故郷の母の病状が思わしくなく、故郷に帰りたくて休憩を願ひ出ているが、宗盛は今年の花見までは一緒に過ごそうと言って、聞き入れない。ある日、故郷より侍女の朝顔が母の手紙を持って訪れる。手紙には今生の別れの前にひと目でも会いたいと書いてあった。湯谷はその文を宗盛に見せて暇を願う。しかし宗盛は許さず、即刻花見のお供をさせる。そして一行は清水寺に花見に向かい、花の下で酒宴となり宗盛の所望で舞を舞う。周りの人々は春の装いに色めき立っているが、湯谷の心は重い。心ここに在らずも舞を舞っている。急に春の通り雨が降り、花を散らす様子をみて母への思いが募る。そしてその思いの歌を短冊にしたため、宗盛に差し出す。さすがの宗盛も哀れと思ひ、暇を与える。湯谷は喜び、宗盛が心変わりしないうちにとその場より遠江国に帰っていくのであった。

(約一時間三十五分)

昭君(しょうくん)

白桃と王母の娘の昭君は、漢の元帝に深い寵愛を得ていたが、胡国との和平のために選ばれて胡王の韓那將のもとに贈られた。残された老父母は、一人娘だった昭君が植え残した柳の下を掃き清める。そこに里人が訪れて、枯れた柳の下を掃く謂れを尋ねると、昭君が胡国へ連れていかれた時に、自分が死んだときはこの柳も枯れるであろうと言いつ残したが、既に柳が枯れてしまったと嘆き悲しむ。里人が尋ねるままに、故国に送られる女性として昭君が選ばれたいわれを語る。共に悲しむ里人に薦められ、むかし桃葉という者が、契りを交わした仙女の死後、桃の花を鏡に映すと仙女の姿が見えたという故事になり、鏡を柳の前に据え置き、泣き嘆きつつ昭君の姿を見ようとする。八中人ノやがて、昭君の亡霊が現れるが、取り付くが如く韓那將の亡霊も現れる。その姿に恐れる両親を見て、韓那將は鏡を覗く。映し出されたのは鬼のような醜い自分の姿。韓那將はこれを恥じて消え失せ、後にはほかに昭君の姿だけが残るのであった。

(一時間十五分)

平成二十八年 四月 自主公演番組予告

平成二十八年 四月二十四日(日) 正午始
十四世喜多六平太記念能楽堂

頼 政 塩津 哲生
吉野 静 友枝 雄人
舎 利 内田 成信